

平成 22 年 3 月 31 日現在

研究種目：基盤研究（C）
 研究期間：2007年～2009年
 課題番号：19530797
 研究課題名（和文）外国人児童生徒の学習言語能力育成のための測定尺度開発並びに教材開発のための研究
 研究課題名（英文） A study to the development of the measurement standard to promote the learning speech and the teaching materials of the foreign child student.
 研究代表者 中田 敏夫(NAKADA TOSHIO)
 愛知教育大学・教育学部・教授
 研究者番号：60145646

研究成果の概要（和文）：

外国人児童生徒の学習言語能力はどこがどう不足しつまづいているかの実態は不明な部分が多い。本研究はそのような実態を語彙・文法を中心に捉えていくための調査研究を行うと同時に、基礎資料としての外国人児童生徒の記述した作文・日記資料などをデータとして採取した。その結果、文章読解の課題として語彙力の必要性和、そのためのリライト教材の必要性などが浮かび上がってきた。

研究成果の概要（英文）：

Where lacks the learning speech of the foreign child student how, and, as for the actual situation whether there is not, there are many unidentified parts. This study gathered composition / the diary document which the foreign child student as the basic document described as data at the same time to perform research to catch such actual situation mainly on vocabulary / grammar. As a result, I understood the necessity of the rewrite teaching materials of necessity and that purpose of the vocabulary as a problem of the sentence reading and understanding.

交付決定額

（金額単位：円）

	直接経費	間接経費	合計
2007年度	1,700,000円	510,000円	2,210,000円
2008年度	800,000円	240,000円	1,040,000円
2009年度	800,000円	240,000円	1,040,000円
年度			
年度			
総計	3,300,000円	990,000円	4,290,000円

研究分野：社会科学

科研費の分科・細目：教育学・教科教育学

キーワード：外国人児童 学習言語 教材開発 測定尺度 国語

1. 研究開始当初の背景

平成2年に「出入国管理及び難民認定法」が

改正されて以降、全国の公立小中学校に多数の外国人児童生徒が在籍し、日本語指導が必要な児童生徒は相当数にのぼる。現在の外国人児童生徒教育に存在する多くの問題点のうち、学習言語・教科指導の課題は深刻である。学習言語能力の向上こそが今求められている支援のあり方である。

2. 研究の目的

既に東京学芸大学のグループを中心とした文科省のプロジェクト「JSLカリキュラム」や岡山大学の光元聰江氏が進めているリライト教材等の取り組みもあるが、本研究は国語教育の側からの取り組みであるという点に特徴がある。すわなち、外国人児童生徒教育に対する教育は日本語指導の段階で終わっただけでは不十分であり、教科指導とりわけ国語科指導にどのように移行していくのが重要である、という視点に本研究は立脚する。ただし、外国人児童生徒にこれまでの国語教育をそのまま行なう、ということでは問題が多い。したがって、日本語教育と国語教育の連携を踏まえ、さらに外国人児童生徒に対する国語教育のあり方そのものを探求すべきであると考え。

3. 研究の方法

外国人児童生徒教育において、国語を中心とした教科学習のためには、カリキュラム・指導法・教材の開発等のうち、本研究では次の2点を目指した。

(1)外国人児童生徒の国語力（学習言語能力）を測定するための尺度の開発。

(2)外国人児童生徒の国語力（学習言語能力）を向上させるための教材、指導法の開発。

学習言語能力の効率的な向上を図るためには学習言語能力そのものを客観的に測定するための尺度が必要とされる。このような尺度のために本研究では、外国人児童生徒の日本語指導でよく使用される日本語テキスト3種

（『にほんごをまなぼう』『ひろこさんのたのしいにほんご』『ともだちをいっしょに』）に出現する語彙と、国語教科書に出現する語彙を抜き出した語彙表を作成する。これに、比較基準として『分類語彙表』の意味分類コードを付す作業を進めつつある。この語彙調査によって、日本語指導によって身につく生活言語の語彙と、国語科指導によって身につく学習言語の語彙との違いといったものが明らかにしうる。またこの語彙表を参考にして外国人児童生徒の語彙力を計ることが可能となる。同様の調査研究を文型や表現力に関しても行なうことで、学習言語能力を様々な面から捉え、指導していく方法を考究する。これに基づき、語彙・文型・表現力といった総合的な観点から学習言語能力を測定する尺度を提供する。

次に、教材については児童生徒の学習言語能力に資すると考えられるリライト教材を作成し、実践的に児童生徒の国語力の形成のあり方を、語彙、文型、文章読解力等の面から明らかにしていく。

以上を有効に活用することで外国人児童生徒の学習言語能力の向上に寄与することが期待できる。

4. 研究成果

本研究は当初信州大学人文学部教授山本清隆氏が代表、愛知教育大学・中田敏夫が研究分担者として始まった。しかしながら、山本氏が1年目の終わりに病に倒れ研究が進められない危機に至った。その年度末、代表を中田が引き受ける形で本科研が継続されることになった。一人になった中田は、山本氏の描いた研究の一部をしか進められなかったと言わざるを得ない。山本氏には申し訳ない思いであるが、ただ外国人児童生徒の置かれた言語状況を少しでも改善すべく、その前提としての言語実態を明らかにしようと努

力した。本研究の意義として、

外国人児童生徒の学習言語能力についてはどこがどのように不足しているのかといった具体的な部分についてはほとんどわかっていないというべきであろう。例えば、語彙に関しては社会的・文化的・歴史的な語彙が不足しているということが断片的に知られているだけであり、体系的な面からの把握はなされていない。

という観点に立ち、専ら外国人児童生徒の作成した作文・日記資料を収集分析した。中学生については教科書教材の「あらすじ」文であり、小学生については「日記」文である。

以下、科研費報告書にまとめた論述と資料について紹介することで研究成果のまとめとしたい。

「論述」では、まず「あらすじ」文をもとに、あらすじ理解力の観点から分析すると同時に、提案として「あらしりライト教材」作成の有効性を説くと同時に、実践結果を報告した。論述1「あらしりライト教材を用いた外国人児童生徒への国語科学習支援」では、在籍学級での学習の前にあらすじりライト教材を使って教材内容全体を概括して学ぶことについて必ずしも必要としないレベルがある一方、一定のレベルでは有効であることが確認されているので、そこで、2009年度、刈谷市立K中学校において、この取り組みの延長上としてより短い時間、具体的には朝の帯の時間を使った形での試みに取り組むことにした。ここでは、中田（『国語りライト教材の開発と実践』2008年 愛知教育大学 現代的教育ニーズ取組支援プログラム 2007年度報告書）が本文に沿ったりライト教材を試みたのに対し、取り組む時間を短くしたこともあり、教材の「あらし」をりライトしたものを提示するとともに、在籍学級での学習につなげるために本文の概要をつか

めたかどうかの「確認テスト」を課している。またこのテスト過程で、正解をつかむと同時に教材本文でどこがその該当箇所に当たるかを提示することで、在籍学級での学習につなげられるようにも配慮した。外国人児童生徒に限らず、教科学習を行っていく際にあらしをきちんと理解しておくことは重要であり、この方法は学習に困難な日本人児童生徒にとっても有効な方法となりうるかもしれない。

論述2「日本人と外国人生徒の「あらすじ」文」では、「あらすじ」をつかんでおくことが文章理解に有効であると考え、通読ないしは精読の過程で、あらすじについて児童生徒に自然と、場合によっては意識的に取り組ませることによって文章全体の内容並びに文章の重要点（キーワード・キーセンテンス）が正確に把握できるようになるために重要な存在といえる。このことから、児童生徒の「あらすじ」を理解する力はどのようにあるのか、日本人児童生徒だけでなく、外国人児童生徒はどうなのか、それをひとつの中学校においてその実態調査を行い、分析検討を行った。日本人生徒は本文通読後、教材文の中からキーになるであろうセンテンスを自分で選別し、抜き出すという作業はおおむねできている。一方、外国人生徒は内容面で大きな流れをつかむことができていない傾向にあることが明らかになった。

「資料」は、まず上記あらすじ文をもとに、語彙分析結果を示した（資料2「語彙からみる日本人と外国人生徒の「あらすじ」文」）、また、小学生が書いた日記資料をもとに、「語彙」（資料5「外国人日記にみる語彙資料」）、文法（資料4「外国人児童の日記にみる助詞「は」と「が」の分析資料」）の観点から資料を整理した。

なお、外国人児童生徒にとって習得定着が

むずかしいオノマトペについても、特別な使用場面における使用実態（「料理・スポーツに関するオノマトペ資料一覧」）並びに現行教科書から（資料6「国語教科書オノマトペ一覧」）リストアップした。これら掲載した言語資料については今後分析検討していき、「外国人児童生徒の学習言語能力を総合的・体系的に捉えていく調査研究であり、現在教育現場で外国人児童生徒が在籍するほとんどの小中学校で苦慮している学習言語能力の問題について、大きな貢献をすることが期待できる」（前述）」とした本研究の課題に応えていきたい。

5．主な発表論文等

〔雑誌論文〕(計2件)

中田敏夫・石丸千保「あらしリライト教材を用いた外国人児童生徒への国語科学習支援」(愛知教育大学大学院国語研究 査読無し 第18号 2010年 1-22)

中田敏夫「リライト教材を用いた外国人児童の国語科学習支援の実践 - 0時間学習での導入 - 」(愛知教育大学教育実践総合センター紀要 査読無し 12号 2009年 159-165)

〔図書〕(計1件)

中田敏夫『外国人児童生徒の学習言語能力育成のための測定尺度開発及び教材開発のための研究』(科研費報告書 2010年 108頁)(論述1「あらしリライト教材を用いた外国人児童生徒への国語科学習支援」、論述2「日本人と外国人生徒の「あらすじ」理解力」、資料1「日本人と外国人生徒の「あらすじ文」、資料2「語彙からみる日本人と外国人生徒の「あらすじ文」、資料3「外国人の日記資料」、資料4「外国人児童の日記にみる助詞「は」と「が」の分析資料」、資料5「外国人日記にみる語彙資料・外国人児童日記にみる語彙資料一覧、資料6「オノマトペ資料・料理スポーツに関するオノマトペ資料一覧」、「国語教科書オノマトペ一覧」

6．研究組織

(1)研究代表者

中田敏夫 (NAKADA Toshio)

愛知教育大学・教育学部・教授

研究者番号：60145646